

No.	中学-幾何(図形)-01
思い込み	公式は覚えたと思っ ていませんか？
具体例	公式を問う問題をたびたび出題しますが、覚えていたり覚えてなかったりします。
解説	人間は忘れる生き物です。 忘れないためには、普段の習慣化が必要です。習慣化とは繰り返し実施することで体に覚えこませることです。
要点	公式は忘れるので繰り返し実施して 浸み込ませます。

No.	中学-幾何-02
思い込み	公式はそのまま使えばよいと思っ ていませんか？
具体例	半径が 3cm の半球の体積を求めなさい。ただし、円周率は $\pi$ とする。 (中学2年 夏休み明けテスト 問9)
解説	問題では「半球」の体積と言っています。「全球」すなわち球体の体積を半分にすることで回答を求める必要があります。
要点	公式だけで答えにたどりつけないとは限らない。

No.	中学-幾何-03
思い込み	問題に書かれた数値・記号は全て使用しないといけないと思いませんか？
具体例	底面が半径 $r$ 、高さが $h$ 、母線が $a$ の円錐の側面積 (オリジナル出題 8/31 豊塾問題)
解説	円錐の側面積は公式を知らないと書けません。 円錐の側面積 = 母線 $\times$ 半径 $\times \pi$ のため、 $ar\pi$ [解説: 覚え方 ハハ $\times$ ハン $\times$ パイ] 高さ $h$ は使いません。 問題文に書いてある数値や記号のうち、どれを使うのかをしっかりと見極める必要があります。そのためには公式だったり、法則だったりを理解して目の前の設問に惑わされないことが必要です。
要点	<b>設問に書いてあることは全て使わないといけないと思込まない。</b>